会報
青山学院大学卒業生教職員校友白亜の会
白亜の会
二〇二三年 四月 一日 発行

第十四回 校友白亜の会 総会 会長挨拶

校友白亜の会 会長　山口菜穂子

白亜の会会長の山口菜穂子でございます。本日の総会へのご参加、お礼を申し上げます。また、本日はご多用の中、青山学院大学教職課程課長山﨑順子様がご参加くださっております。ありがとうございます。

今年度の白亜の会の総会は、迷ったのですが、オンラインでの総会とし、総会終了後、白亜の会前会長　祢津　啓（ねつ　あきら）先生のお話をいただき、交流会も予定しております。どうぞ、最後までお付き合いくださいますよう、よろしくお願いいたします。

今年度の白亜の会活動は、対面指導が二年ぶりに復活しました。受講者五五名。今年度より受講学生より受講費用として千円徴収いたしました。その収支決算は後程報告いたします。

その五五名のうち、三名は大学院などに進学を決め、五二名中合格者は二九名（中・高一七名　小一二名）。五六％という合格率でした。連絡がない不明者が一七名おり、その数を省くと合格率は八二％となります。

昨年度から始めた1次合格者対象の直前面接指導は大変好評でした。学生の緊張感も高く、集中・充実した指導になりました。

改めまして、講師の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。しかし、講師は足りない状況です。お手伝いいただける会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

さて、本日は二月四日。立春ですね。

「梅一輪　一輪ほどの　暖かさ」

寒い中でも梅が一輪一輪と咲くように、暖かさが少しずつ感じられる候となりました。コロナ禍である現在、子供たちや保護者、そして、教職員へのコロナの影響がどんなにか心配です。少しずつでも本来の春が来て、暖かい　本来の日常が戻ってくることを願ってやみません　。

私は、今年度の始まりに四年生の皆さんに　吉田松陰の名言

夢無き者に理想なし
理想無き者に　計画なし
計画無き者に　実行なし
実行無き者に　成功なし
ゆえに
夢無き者に　成功なし

という言葉を伝えました。夢をもち、希望をもち、目標をもち、自ら計画・実行し、自らの夢を成功させましょう。その一歩をお手伝いします…と。

二〇二三年度　令和五年度も　白亜の会は　青山学院大学出身の優秀な教員の誕生に、夢をもって、活動してまいります。

どうぞ、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

◆　◇　◆

《総会ご報告》

二〇二三年二月四日（土）一五：〇〇～ＺＯＯＭによる配信の総会を開催し、すべての議案を承認いただいたことをご報告いたします。

参加者は少数精鋭でしたが、松本市の現役の方や、多忙の副校長の方が参加してくれ、オンライン総会の良さを実感しました。今後、対面が可能になっても、オンライン併用の総会にすることを検討してい

きたいと役員会で話し合っています。

私たちにとって愛着のあった青山会館が新しくなっております。校友会の集会室がグリーンエリアとしてリニューアルされております。今回もそのC室より配信しました。

二〇二三年度の総会はこのリニューアルされたグリーンエリアで総会・懇親会を開催したいと考えております。二〇二四年二月、どうぞ今からご予定ください。

◆　◇　◆

《講演会の記録》

二〇二三年二月四日 第一四回 総会 交流会にて

「校友白亜の会のミッション」

校友白亜の会 前会長　祢津　啓

皆さん、こんにちは。私はただ今ご紹介いただきました「青山学院大学卒業生教職員校友白亜の会」の前会長をしていました。今は会長相談役というお役をいただいています祢津啓と申します。

本日は「校友白亜の会」の第一四回総会、誠におめでとうございます。このコロナ禍の中、会長の山口先生を中心に役員の方々のご努力で活動もパソコンのズームやメールを活用して継続充実させていただき心より感謝申し上げます。総会に伴いまして、私の考える校友白亜の会のミッション（使命）について少しお話しさせていただきます。

かえりみますと、平成一九年（二〇〇七年）「校友白亜の会」の前身である「OB会」を志を同じくする仲間とともに私達は立ち上げました。その当時副会長をしていました。平成二一年度には名称を「青山学院大学卒業生教職員校友白亜の会」として正式に立ち上げました。その間も副会長として会長の小池先生を補佐して運営に関わってきました。その後、私は平成二四年度（二〇一二年）より三〇年度（二〇一八年度）まで会長を務めさせていただきました。OB会の立ち上げから会長としての七年間を含めて一〇年余り「校友白亜の会」の運営に携わってきたことになります。

青山学院大学にはかつて、卒業して教職に携わる者たちの拠り所として「青山学院大学卒業生教職員同窓会」がありまして大変充実した活動が展開されていました。その主な活動は、卒業して教師になっている者たちが懇親を深めたり大いに情報を交換したりする場でありました。後継者を育てる活動としては大学との連携のもと、教員志望の学生の方々対象に小中高等学校の現場での体験学習や、教育実習生へのオリエンテーションによる指導や質問コーナー等々様々に行われていました。この活動は、当時他大学にはない素晴らしいものでした。現在は大学が、そっくり引き継いで続けてくださっていますが、初めは同窓会の力で始めたものでした。

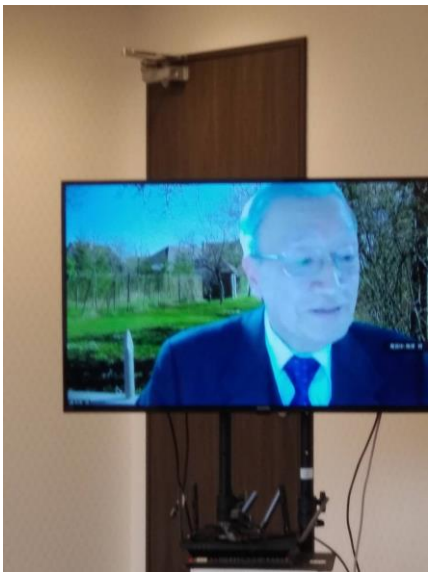
「総会・懇親会」には院長先生、学長先生をはじめ各学部長の先生方も勢揃いなさっていました。それまで二三年間に及ぶ活動も残念ながら平成一六年の総会をもって活動休止となりました。

それを、私達当時の役員の仲間で何とか「同窓会」の活動を復活させたいという願いから平成一九年より「OB会」として立ち上げ、二一年に「青山学院大学卒業生教職員校友白亜の会」として正式に立ち上げ、現在に到っています。私達の活動の根幹にあるのは「母校への愛情と感謝」の気持ちです。そして、大学への恩返しをしたいということでした。このことは、まさに「青山学院校友会」の理念でもありました。やがて、平成二七年度より私達「校友白亜の会」も、その活動を認められて「青山学院校友会」のお仲間にも入れていただけました。本当に嬉しいことでした。

さらに、山本院長先生のお勧めもありまして「青山学院校友会」より「校友白亜の会」の「団体旗」を作っていただき、活動の時には常に会場に掲示して学生達への励みにさせていただいています。

校友白亜の会の願いは、同じ青山学院で学び教職に就いた仲間同士助け合い、協力しあって情報交換や懇親を深め、さらに「後継者育成」を通して、より健全な社会作りに寄与することにあるのだと思っています。そのため、大学主催の「教員採用試験対策講座」の一環として後継者育成を目指して「論文指導」と「面接指導」を担当させていただいています。

話は変わりますが、私は今「俳句」に親しんでいます。その季語の一つに「楪」（ゆずりは）という新年の季語があります。「楪」という葉っぱを御存じでしょうか。ユズリハ科の常緑高木で葉は長楕円形をしています。その特長的なこととして新しい葉が成長してから古い葉が譲るように落ちていくということがあります。それで、この名前がつきました。別名「親子草」ともいいます。我が国では、たいへんおめでたい木だとされ、葉を新年のお飾りにしたりします。この「楪」の生き方は何か子育てに似ていますね。また、教育者の姿にも似ています。



祢津啓前会長によるリモートでの講演

私達が後世に残すことができるのは何か、私は自分で学び、経験したことや体験したことから得られた考えや思想を、次代を担う若い人たちに伝えていくことだと思っています。それは、まさに私達にとっては「教育」を後世に残すことでありミッションとなるのではないかと思っています。その取り組みは、後輩の人たちが教師として立派に育っていくまで続くことにあります、丁度、楪が新しい葉の立派に育つまで頑張っている姿に重なります。

私は自分が中学生の時に、素晴らしい先生に出会ったことで「教師」の道を目指しました。青山学院との出会いは「高等部」の時でした。大学は文学部教育学科を卒業しました。初めは、小学校の教師を六年間しました。その後は中学校に移って退職まで三〇年間勤務しました。その間、教師としての私を支えてくれたのが「同窓会」の方々との出会いでした。新卒の頃から「同窓会」にはよく顔を出していました。教師になった頃は、今の社会とは違った様々な課題や困難がありました、その時同窓会で出会う大学の先輩の方々からのアドバイスや励ましに大きな力をいただきました。今日の私があるのは「同窓会」の方々のお陰であると思っています。その頃、現在、校友白亜の会の役員をなさっている上原先生や鈴井先生との運命的な出会いがありました。

私達、青山学院で学んだ教師は常に「子供の味方」でなくてはなりません。現在の子供たちを取り巻く環境は決してよくありません。私は、これまで「子供は常に被害者である」ということを念頭において学校教育に携わってきました。子供は常に弱者ですから教師が味方にならなければなりません。生まれた時から悪い子はいません、非行に走った子もその原因は大人にあります。

スクールモットーにある「地の塩、世の光」を目指し、青山ビジョンである「サーバントリーダー」としての生き方を目指して努力していきたいものです。青山学院で学んだ者は、青山学院で学んだ者だからこそ、目の前にいるすべての子供たちに幸せになってほしい、「生きる喜び」をすべての子供たちに持たせてあげたい、特に、クラスの中で目立たない

教職課程課長より感謝状をいただく

子、生まれつき身体の弱い子、多くの課題を持っている子や、弱い立場にある子供にこそ目をかけてほしいと思っています。それこそがサーバントリーダーとしての生き方であるからです。

確かに、教師の仕事には多くの困難があります。しかし、一つでもやり終えた時の喜びは他のものにはかえがたいものがあります。やりがいのある素晴らしい仕事だと思っています。

私は、子供たち一人ひとりを健全に育てることによって、社会をより健全に創造することができる、また、子供を育てることによって自分自身をも成長させていくことができる。それが教師の仕事の素晴らしい所であり、他の仕事では経験できないことであると思っています。私は、そのように信じて、これまで教育に携わってきたつもりです。

どうぞ、皆さん、これからも「校友白亜の会」の活動に参加してください。特に悩んだり、苦しい時にこそ「校友白亜の会」を思い出してください。そして「総会」「懇親会」に参加してみてください。きっと、得られるものがあるはずです。皆さん、これからの世界には、どのような困難や課題が待ち受けているかわかりません。さらに、予測できない、不透明な社会となっていくかもしれませんが、ともに、同じ青山で学んだ者同士、力をあわせて「地の塩、世の光」を目指して頑張っていこうではありませんか。

本日は、ご清聴、有難うございました。

◆　◇　◆

《交流会の様子》

齊藤副会長の司会で、参加者の自己紹介を中心に交流をしました。和やかな雰囲気の中、それぞれの近況を知り合える貴重な時となりました。まず、今年度の合格者三人に感想と意欲を述べてもらいました。教師になって子供たちの未来を担うことを楽しみにしている様子に頼もしさと希望を感じました。白亜の会への感謝もあり、改めて実施する意義を確認しました。皆様、ご参加、ありがとうございました。

◆　◇　◆

《教職採用試験対策講座説明会》

三月一五日に大学主催の「新四年生への教員採用試験対策講座説明会」に『白亜の会』の講座（補講）のPRに行ってまいりました。その折に、教職課程課より「感謝状」をいただきました。祢津先生の時よりいただいている感謝状を今も毎年欠かさず、いただいております。スクール・モットーである『地の塩・世の光』サーバントリーダーであるべく、今年度も活動を続けてまいります。今後も会員の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

感謝状

青山学院大学
卒業生教職員校友白亜の会 殿

貴団体は 2022年度教員採用試験対策講座（同窓会による補講）において教員を目指す本学学生に献身的な指導を通じて多大なる貢献をされました
よってその愛と奉仕の精神に心より感謝の意を表します

令和4年12月20日
青山学院大学
教職課程主任　平賀　仲夫

編集後記

WBC栗山監督の「信じる力」が話題になっています。「信じる力」の三つの段階、①信頼できる、②頼りにできる、③任せておける、で考えると、栗山監督の「選手を信頼し任せておける力」が、優勝に導いたと言えるでしょう。教育に携わる私たちの範とし、学び身に着けたい姿勢ですね。

第十四回総会の議案書及び資料は、白亜の会ホームページでご覧いただけます。また、二〇二三年度の白亜の会の教員採用試験対策講座は四月一五日（土）に開講いたします。今年度もご協力をよろしくお願いいたします。（U）